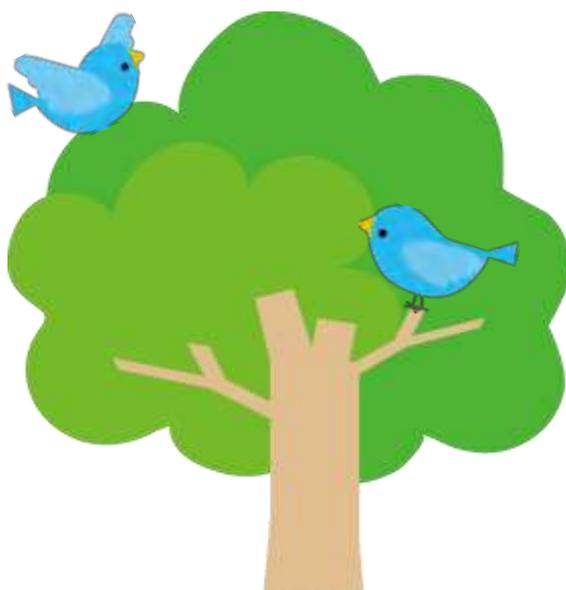




ひきこもり等子ども・若者相談支援センター  
枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議

平成26年度の記録

[資料編を除く]



枚方市子ども青少年部子ども青少年課



# 目 次

## 【1】ひきこもり等子ども・若者相談支援センター

1. 平成26年度月別延べ相談件数	1 p
2. 場所	1 p
3. 相談員	2 p
4. 相談方法	2 p
5. 相談対象者	2 p
6. 相談内容	4 p
7. 支援内容	5 p
8. 職員の研修体制	7 p
9. 視察の受入	8 p

## 【2】市民啓発等

1. 万城目学さん講演会&トークセッション	10 p
2. 子ども・若者支援のための市民連続講座	11 p
3. その他	12 p

## 【3】枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議

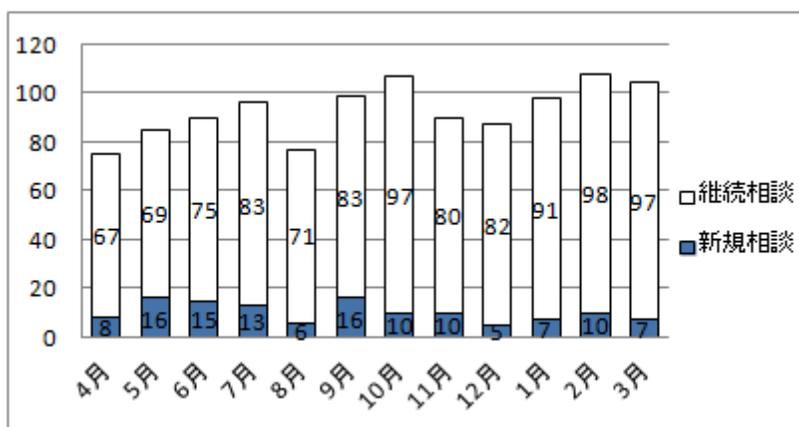
1. 平成26年の活動状況	14 p
2. 平成26年度ネットワーク会議参加（案内）機関	15 p
3. 全体会議の会議録	16 p

# 【1】 ひきこもり等子ども・若者相談支援センター

## 1. 平成 26 年度月別延べ相談件数

新規相談が 123 件、継続相談が 993 件、合計延べ相談件数は 1,116 件でした。

新規相談は毎月 10 件前後あり、継続相談は昨年度からの引き継ぎを含め件数は増加傾向です（平成 25 年度は、新規相談が 200 件、継続相談が 488 件、合計延べ相談件数が 688 件）。



## 2. 場所

○ 枚方市役所子ども青少年課内

平成 27 年 1 月より、枚方市役所別館 1 階から 5 階へ移動しました。安心して相談していただけるよう、専用の相談室も引き続き設置しています。



### 3. 相談員

- 臨床心理士等の専門相談員が対応

社会福祉士1名、臨床心理士2名の3名体制で対応しています。

相談員のスキルアップのため、月に1回ひきこもり等の支援について外部講師より助言をもらうスーパービジョンを実施し、各種研修へも参加しました。また、相談員同士の情報共有の場を月1回程度、枚方若者サポートステーションとの共有会を月1回程度行い、相談員を支えるしくみ作りにも取り組みました。

### 4. 相談方法

- 電話相談と面接相談

	電話相談	面接相談
H26年度	87	1029
H25年度	148	540

平成26年度は、電話相談が87件、面接相談が1,029件でした。平成25年度と比べると、直接お会いし時間をかけて相談をお受けする支援が積み重なっているとと言えます。

専用電話を設置し、面接相談の予約と電話相談の対応をしています。

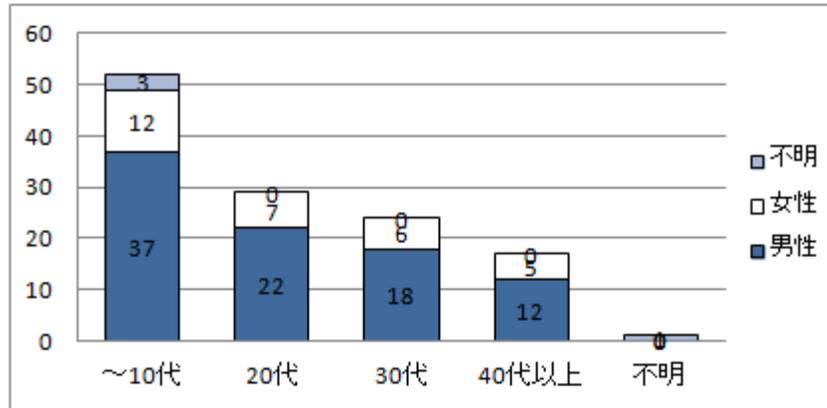
### 5. 相談対象者

<年齢>

- 相談対象は、おおむね15歳（中学卒業後）から39歳まで（40代以上の方のご相談もお受けしています。）

平成26年度は、10代が一番多く、20代、30代と続きます。15歳から対象ということを見ると、10代の多さは特徴的です。また、一定数40代以上の方の相談もあるという現状がみられました。約7割が男性対象者についての相談でした。

年齢(代)×性別	～10代	20代	30代	40代以上	不明	計	
男性	37	22	18	12	0	89	72.4%
女性	12	7	6	5	0	30	24.4%
不明	3	0	0	0	1	4	3.2%
計	52	29	24	17	1	123	
	42.3%	23.6%	19.5%	13.8%	0.8%		



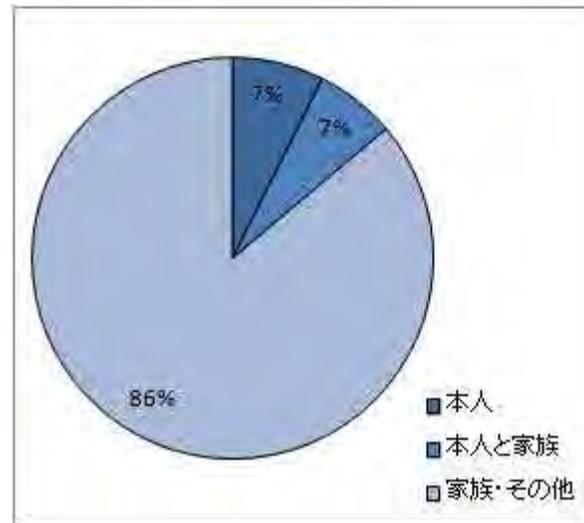
<相談者>

○ 相談は、ご本人とご家族、関係者の方が対象

—初回相談者—

本人	9	7.3%
本人と家族	8	6.5%
家族・その他	106	86.2%
計	123	

初回相談は、86.2%がご家族からです。家族支援の重要性を感じます。まずはご家族との定期的な継続相談を続け、ご本人への関わり方を一緒に考えたり、来所に誘っていただいたりと、ご家族からの働きかけを支援します。徐々にご本人とつながっていくことを目指していきます。



—機関連携—

ご本人またはご家族の了承のもと、他機関より事前連絡があり、新規に相談を受けたケースも数件ありました。

(例) 生活福祉室、市民相談課、家庭児童相談所、障害福祉室、地域包括支援センター、人権まちづくり協会、DV相談室 等

<居住地>

市内	106	86.2%
市外	6	4.9%
不明	11	8.9%
計	123	

対象は市内在住の方ですが、市外の方からの相談もありました。一旦お聴きして、他市で利用できる相談窓口の情報提供を行うまでの対応をしています。

## 6. 相談内容

○ 相談内容は、ひきこもり、ニート、不登校に関するものが対象

平成 26 年度の相談内容は、ひきこもりと準ひきこもり相談が合わせて 42.0%、続いて不登校相談が 18.5%、就労相談が 15.9%でした。

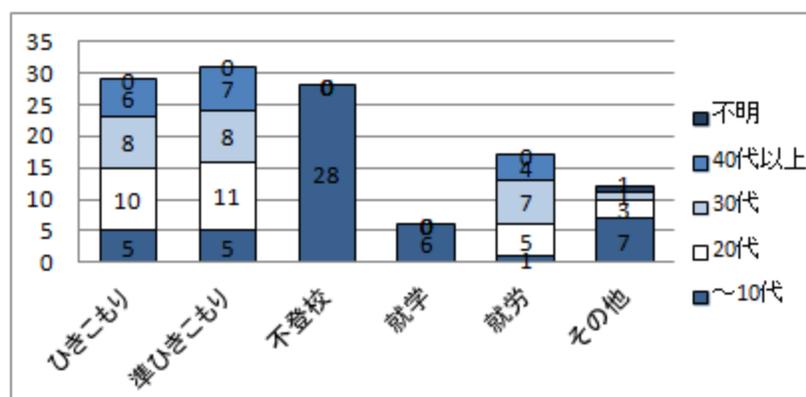
ひきこもり	準ひきこもり	不登校	就学	就労	その他	計
31	35	29	6	25	31	157
19.7%	22.3%	18.5%	3.8%	15.9%	19.8%	

(相談内容の複数選択あり)

ひきこもりと準ひきこもり相談、就労相談は、20代と30代が中心ですが、それぞれ各年代からの相談がありました。10代の不登校相談の多さは特徴的でした。

年代×内容①

	ひきこもり	準ひきこもり	不登校	就学	就労	その他	計	
～10代	5	5	28	6	1	7	52	42.3%
20代	10	11	0	0	5	3	29	23.6%
30代	8	8	0	0	7	1	24	19.5%
40代以上	6	7	0	0	4	0	17	13.8%
不明	0	0	0	0	0	1	1	0.8%
計	29	31	28	6	17	12	123	
	23.6%	25.2%	22.8%	4.9%	13.8%	9.7%		



※上記、性別及び年齢と、相談内容別の件数は、主な相談内容をひとつにして集計しています。

## 7. 支援内容

- 1回の電話及び面接相談で、助言や適切な窓口につないで終了したケース

新規相談 123 件中、59 件でした。終了の例としては、適切な支援機関の情報提供や資源の整理、家族の関わり方についての助言を行ったものなどです。

(情報提供支援機関) 地域若者サポートステーション、枚方市保健所、教育委員会「子どもの笑顔を守るコール」、家庭児童相談所、枚方公園青少年センター、家族会、他市相談窓口など(多かったものを抜粋)。

- 複数回の相談を重ねて助言や他機関へのつなぎ及び、継続相談となっているケース  
新規相談 123 件中、64 件でした。

### (H25年度からの継続相談も含め)

H27.3.31時点で継続相談中	72	平成 27 年 3 月 31 日時点で継続相談中のケースは 72 件です。その内、ご本人と継続相談中が 36 件、ご家族と継続相談中が 56 件です。ご家族とご本人両方の相談をお聴きしているケースも 20 件あります。
本人と継続相談中	36	
家族と継続相談中	56	
(内)本人と家族と並行で継続相談中	20	

- 訪問支援

家庭訪問	40
同行訪問	18
	58
自宅近隣まで 出向いて面談	3

継続相談の中で、必要に応じて訪問支援を行いました。  
ご自宅へ伺って、ご本人のお話をお聴きする家庭訪問は、40 件ありました。ご本人を守っている家庭の中へ入っていく方法ですので、まずはご家族との相談を重ね、ご本人の了承を得た上で、慎重に行っています。

一人では難しいが相談員の手助けがあれば、次の新しい機関へ行くことができる場合は、ご本人と一緒に各窓口へ同行する支援も行いました。また、ご家族と一緒に他の機関へ同行させていただいて、引き継ぎを行ったり、説明を聴かせていただくこともあります。このような同行訪問は、18 件ありました。

また、自宅近隣であれば会うことができるという場合には、生涯学習市民センター等を利用して、そこまで出向いて面談を行ったものが 3 件ありました。

(同行訪問先) ご家族…保健所など

ご本人…地域若者サポートステーション、ハローワーク、市役所各窓口、福祉関係事業所、散策など

- 心理検査の活用

ご本人との面談の中で、自分理解を深めるヒントとして心理検査を活用したケースが、2

件（3種類）ありました。

### ○居場所支援「ひらぼ」

ひきこもり等の子ども・若者が社会に参加するきっかけとするためのスモールステップとしての居場所支援「ひらぼ」を平成26年6月より、枚方公園青少年センターにて開始しました。相談支援センターの相談者を対象に、相談員との1対1の関係からステップアップし、5、6人の集団での活動を通して社会とのつながりを築いていくことを目指します。実際の活動においては、専門のコーディネーターを設置し、平成25年度に実施した「サポートフレンド養成講座」を受講したサポートフレンド（登録者18名）の協力を得て、料理やゲーム、スポーツや施設見学などの活動を行いました。

その中で、少しのストレスと少しの傷つきを体験し、つまずいても起き上がれる少しの強さを身につけていってほしいと思っています。居場所支援と並行して、個別の面接相談も継続し、ひとりひとりに合った目標を決めたり、体験した出来事を整理したりしています。

平成26年度は、毎週水曜日と、1月からは月に1回（最終金曜日）開催日を拡充し、開催が43回、参加延べ人数は70人でした（実人数7人）。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所回数	4	5	3	4	5	4	4	5	4	5	43
参加延べ人数	4	6	4	10	9	7	7	7	8	8	70

また、居場所支援に携わってくださるサポートフレンド対象の研修を、月1回行っています。その他、子ども・若者にかかわる研修をサポートフレンド研修と位置づけ案内したり、NPO法人ホースフレンズ事務局（枚方若者サポートステーション、子ども・若者自立支援センター）と合同の交流研修会（11/29）も行いました。

居場所支援「ひらぼ」を中心に、ひきこもり等子ども・若者相談支援センターの取り組みを広報するため、平成26年12月より通信「ひらぼう」の発行を開始しました。平成26年度は2報作成し、相談利用者や各関係機関へ配布しました。

### ○家族の会

実施回数	8
参加延べ人数	31

平成26年7月より、月に1回、相談支援センターの相談者を対象に同じ悩みを持つ家族の相互理解や交流を目的として、家族の会を開催しました。

26年度は実施が8回、参加延べ人数は31人でした。

自由に思いを語り合う時間を中心に、ひきこもり等の背景に関わる話題や、将来のための制度について等、職員から話題提供を行う時間も合わせて設けました。

7月	自己紹介
8月	自己紹介、近況報告
9月	近況報告
10月	近況報告
12月	発達障害について①(入門編)、意見交換
1月	居場所支援「ひらぼ」について、意見交換
2月	発達障害について②、意見交換
3月	福祉の制度について(障害福祉を中心に)、意見交換

## 8. 職員の研修体制

### ○スーパービジョン

平成 25 年 9 月より、一般社団法人 office ドーナツトーク代表の田中俊英さんをスーパーバイザーに迎え、ケース検討を基本にしたスーパービジョンと相談体制や居場所のあり方などを助言・指導いただくコンサルテーションを実施してもらっています。

平成 26 年度は、毎月 2 時間ずつ実施。計 12 回おこないました。

### ○研修等への参加

#### ① 困難を有する子ども・若者の相談業務に携わる公的機関研修

主催：内閣府

日時：平成 26 年 10 月 20 日(月)～24 日(金)

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加人数：1 人

#### ② 子ども・若者支援地域協議会設置促進事業 第 2 回合同研修会

主催：内閣府

日時：平成 27 年 2 月 16 日(月)～18 日(水)

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加人数：1 人

#### ③ 青少年相談機関に関するブロック連絡会議（近畿ブロック）

主催：内閣府

日時：平成 27 年 1 月 19 日(月)

場所：和歌山県 J A ビル

参加人数：2 人

#### ④ 大阪府高校中退・不登校フォローアップ事業フォーラム

「高校生サバイバー～大阪からの「新しい高校」のカタチと、高校生の「声」～」

出演：(NPO)み・らいず、(一社)office ドーナツトーク、(NPO)志塾フリースクール

(NPO)フェルマータ、(NPO)子ども・若者支援ネットワークおおさか

ファシリテーター：田中俊英（officeドーナツトーク）、山本了輔（志塾フリースクール）

オブザーバー：石井正宏（シェアするココロ）

主催：大阪府政策企画部青少年・地域安全室青少年課

日時：平成26年8月5日（火）

場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）

参加人数：2人

⑤ ひきこもり等相談支援機関合同説明会&講演会

講演会司会：玄田有史（東京大学社会科学研究所教授）

パネリスト：工藤定次（青少年自立援助C）、川又直（北陸青少年自立援助C）

主催：大阪府政策企画部青少年・地域安全室青少年課

日時：平成27年1月24日（土）

場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）

参加人数：1人

⑥ 大阪府発達障がい児者総合支援事業等にかかる市町村説明会

主催：大阪府福祉部障害福祉室地域生活支援課

日時：平成26年9月25日（木）

場所：おおさか市町村職員研修研究センター（マッセOSAKA）

参加人数：1人

⑦ ひきこもり相談支援従事者研修会

「長期化を防ぐために私に出来ること」～今日からはじめる早期支援～

主催：京都府家庭支援総合センター

共催：京都府青少年の社会的ひきこもり支援ネットワーク連絡会議

日時：平成26年12月9日（火）

場所：京都府民総合交流プラザ 京都テルサ

参加人数：2人

⑧ 堺市ひきこもり支援講演会 ～ひきこもりの“今”と家族の関わり～

講師：斎藤環（筑波大学医学医療系社会精神保健学教授）

主催：堺市

日時：平成27年1月10日（土）

場所：堺市西文化会館

参加人数：1人

⑨ 第1回 枚方市子どもをはぐくむネットワーク

内容：ネットワークの設置について、各機関の役割と現状の報告他

主催：枚方市家庭児童相談所

日時：平成26年7月25日（金）

場所：教育文化センター

参加人数：3人

⑩ 第2回 枚方市子どもをはぐくむネットワーク

内容：発達をめぐる保護者相談

主催：枚方市家庭児童相談所

日時：平成26年12月15日（金）

場所：教育文化センター

参加人数：3人

- ⑪ 10代からの子育てハッピーアドバイス ～見逃さないで、子どもの心の“SOS”～  
講師：明橋大二（真生会富山病院心療内科）  
主催：枚方市家庭児童相談所  
日時：平成27年2月13日（金）  
場所：ラポールひらかた  
参加人数：1人
- ⑫ ゲートキーパー養成研修  
講師：八尾和彦（関西いのちの電話事務局長）他  
主催：枚方市健康総務課  
日時：平成27年3月18日（水）  
場所：ラポールひらかた  
参加人数：1人
- ⑬ ウィル講座 おとなの発達障害の理解と支援を考える  
講師：堀内桂（大阪府発達障がい者支援センター（アクト大阪）センター長）  
主催：枚方市男女共生フロア・ウィル  
日時：平成27年2月26日（木）  
場所：メセナひらかた会館  
参加人数：2人
- ⑭ 発達障害のある方の就労支援に係わる講演会  
講師：NPO大阪精神障害者就労支援ネットワーク  
主催：枚方市障害福祉室  
日時：平成27年1月29日（木）  
場所：ラポールひらかた  
参加人数：2人

## 9. 視察の受入

- ① 埼玉県松山市議会（9人）  
日時：平成26年5月12日（月）
- ② 兵庫県川西市こども家庭部こども・若者政策課（2人）  
日時：平成26年8月8日（金）
- ③ 和歌山県橋本市健康福祉部福祉課（4人）  
日時：平成27年2月9日（月）

## 【2】市民啓発等

### 1. 万城目学さん講演会&トークセッション

平成27年2月に、枚方市子ども夢基金活用事業として、作家の万城目学さんをお呼びして「今の自分、なりたい自分、かなえたい未来」と題した講演会とトークセッションをおこないました。

大学卒業後、勤めていた会社を辞め、上京して、ゴキブリの跋扈する部屋でひきこもりの様な状態で作家を目指していた万城目さん。未来が見えないまま夢に向かっていた日々と現在の作品や表現に対する思いについて語っていただきました。

後半は、「A4サイズの自分」と名づけて、あらかじめA4サイズの紙に表現にされた作品を枚方市内の高校生等の若者に呼びかけて募集しており、その作品を基に、選ばれた3人の若者ととも将来の夢などについて、トークセッションをおこないました。

日時：平成27年2月22日(日) 14:00～16:00

場所：メセナひらかた会館 多目的ホール

参加者：182人 集まった作品：205点



若者とのトークセッション

## 2. 子ども・若者支援のための市民連続講座

### —ひとりひとりが自分らしく—

平成27年3月に、ひきこもり等の問題とひきこもり等子ども・若者相談支援センターについて、市民により広く、深く知っていただくために連続講座を企画しました。

4回実施し、いずれも40人前後の参加をいただきました。関係機関や相談を行っている当事者（親）の参加も多く、ひきこもり等の若者の現状と支援について理解を深める機会となりました。

#### 第1回

日時：平成27年3月6日（金）14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ：若者の自立・就労支援「有給職業体験バイターン」等

講師：石井 正宏さん（株式会社 シェアするココロ 代表取締役）

参加者：43人



#### 第2回

日時：平成27年3月10日（月）14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ：ひきこもりつつ育つ —若者の可能性に学ぶ—

講師：山本 耕平さん（立命館大学 産業社会学部 教授）

参加者：42人



#### 第3回

日時：平成27年3月13日（金）14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ：未来を見据えた10代支援「高校生サバイバー」

講師：辻田 梨紗さん（一般社団法人 officeドーナツトーク）

参加者：31人



#### 第4回

日時：平成27年3月19日（木）14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ：それぞれのライフサイクルにおける発達障害

講師：柴田 真理子さん（大阪府立精神医療センター 児童・思春期科  
主任部長）

参加者：47人



### 3. その他

#### 〈1〉 こころの保健ゼミナール

枚方市精神保健福祉推進協議会（事務局 枚方市社会福祉協議会）主催で毎年こころの問題全般、ストレスや精神障害、アルコール依存、自死の問題等をテーマに、精神保健福祉に関する正しい啓発と理解を目的に実施されている「こころの保健ゼミナール」で、昨年に引き続き、ひきこもり等子ども・若者相談支援センターとして、ひきこもり等に係わる講演会の依頼を受け、下記のとおり実施しました。

日時：平成26年8月7日（木）13:30～15:00

場所：ラポールひらかた 大研修室

テーマ：ひきこもり支援のための理解とヒント

- ① 枚方市におけるひきこもり支援について
- ② 心の発達論—青年期の心模様—

#### 〈2〉 広報ひらかた

居場所支援「ひらぼ」を6月から開始していることにあわせ、広報ひらかた平成26年8月号に「ひきこもり等の若者への支援を拡充 青少年センターで居場所支援「ひらぼ」開始」という記事が掲載されました。

#### 〈3〉 青少年サポートマップ

平成23年度から作成（当初は枚方公園青少年センターで）している、枚方市内の青少年の相談機関等をA3裏表で紹介する青少年サポートマップを昨年に引き続き作成しました。各掲載機関の情報を最新のものに更新し、27の相談窓口や家族会・当事者会を掲載しました。6,000冊印刷して相談の現場で活用する他、関係機関や市の窓口職場に配布しました。

#### 〈4〉 生涯学習市民講座

枚方市内の生涯学習市民センター（8カ所）で、毎年2ヶ所ずつで「もっと知りたい枚方市の取り組み」というテーマで講座をおこなっているもの。サンプルザ生涯学習市民センター実施分で、「青少年サポートマップの活用を！」と題し、3回に分けた連続講座を実施しました。第1回目は、子ども青少年課が、第2回目は枚方若者サポートステーションが講師をつとめ、第3回目は、ネットワーク

会議参加の機関でシンポジウムをおこないました。

場所：サンプラザ生涯学習市民センター

- ① 平成26年11月21日(金)13:30～15:00 22人参加  
「悩んでいる若者にできること（ひきこもり相談を中心に）」
- ② 平成26年11月28日(金)13:30～15:00 15人参加  
「若者の就労支援について」
- ③ 平成26年12月5日(金)13:30～15:00 14人参加  
「青少年サポートマップ掲載の関係団体によるシンポジウム」

## 【3】枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議

### 1. 平成26年度の活動状況

ひきこもりやニート、不登校などの相談機関・関係機関のネットワーク構築のため、平成24年6月より枚方市内で活動している各関係機関に呼びかけて、枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議（以下、ネットワーク会議という）を開催しています。

平成26年度は、偶数月に全体会議を奇数月に世話人会議を開催しています。世話人会議で次回の全体会議のテーマを決めたりネットワーク会議自体の方向性を検討したりしています。

平成27年4月から、生活困窮者の支援制度が始まることから、枚方での制度の準備状況の報告・共有や、就労困難者の支援で先行した取り組みをおこなっている豊中から講師を招き、話しを聞くなどの取り組みをおこないました。

また、2月には、市内で活動する家族会・当事者会を招いて意見交換をおこないました。

実施日	会議名	内容
4月17日	第1回全体会議	①昨年度実績の確認と本年度計画の検討 ②居場所実施の報告
5月30日	第1回世話人会議	次回全体会の内容検討
6月20日	第2回全体会議	各機関の活動紹介
7月18日	第2回世話人会議	次回全体会の内容検討
8月21日	第3回全体会議	豊中市における若者支援について (講師：豊中サポステ白水崇真子さん)
9月18日	ケースカンファレンス	参加：枚方若者サポートステーション・ 枚方市保健所保健予防課・ 人権まちづくり協会・子ども青少年課
9月30日	第3回世話人会議	次回全体会の内容検討
10月16日	第4回全体会議	豊中市の就労支援 (講師：豊中市 西岡正次さん)
11月26日	第4回世話人会議	次回全体会の内容検討
12月18日	第5回全体会議	①25年度報告書作成検討 ②ハローワークより報告 ③生活困窮者支援報告
1月13日	第5回世話人会議	次回全体会の内容検討
2月19日	第6回全体会議	①生活困窮者支援報告 ②家族会の活動について
3月31日	第6回世話人会議	次回全体会の内容検討、来年度の計画、 26年度の記録について

## 2.平成26年度 ネットワーク会議参加（案内）機関

枚方公共職業安定所（ハローワーク枚方）  
大阪府中央子ども家庭センター  
大阪府精神医療センター  
枚方市民生委員児童委員協議会  
枚方市社会福祉協議会  
NPO法人枚方市人権まちづくり協会  
枚方市地域就労支援センター  
枚方市いきいきネット相談支援センター（社会福祉協議会・人権まちづくり協会）  
枚方若者サポートステーション（NPO法人ホースフレンズ事務局）  
北大阪若者サポートステーション（NPO法人フェルマータ）  
大阪府若者サポートステーション（NPO法人スマイルスタイル）  
東大阪若者サポートステーション（社会福祉法人つむぎ福祉会）  
OSAKAしごとフィールド  
枚方市障害者自立支援協議会幹事会（NPO法人パーソナルサポートひらかた・社会福祉協議会）  
枚方市障害者就業・生活支援センター（社会福祉法人であい共生舎）  
特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター  
長尾谷高等学校  
大阪府立寝屋川高等学校（定時制の課程）  
大阪府立大手前高等学校（定時制の課程）  
近畿情報高等専修学校  
枚方市教育委員会 教育相談課  
枚方市 地域振興部 産業振興課  
枚方市 福祉部 障害福祉室  
枚方市 福祉部 生活福祉室  
枚方市 健後部 枚方市保健所 保健予防課  
枚方市 健康部 保健センター  
枚方市 子ども青少年部 家庭児童相談所  
枚方公園青少年センター  
枚方市 子ども青少年部 子ども青少年課（事務局）

以上29機関

### 3. 全体会議の会議録

会議の名称	平成 26 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 1 回 全体会＞	
開催日時	平成 26 年 4 月 17 日（木）	14 時 00 分から 16 時 00 分まで
開催場所	メセナひらかた会館 特別会議室	
出席者	枚方公共職業安定所：2 人 大阪府立精神医療センター：1 人 枚方市人権まちづくり協会：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 枚方市いきいきネット相談支援センター：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 寝屋川高校定時制の過程：1 人 枚方市障害自立支援協議会幹事会：1 人 全国若者支援連絡会議：1 人 東大阪若者サポートステーション：1 人 ひらかた市民活動支援センター：1 人 長尾谷高校：1 人 パーソナルセラピー協会：1 人 枚方市保健所・保健予防課：2 人 産業振興課：1 人 障害福祉室：1 人 生活福祉室：1 人 家庭児童相談所：1 人 保健センター：1 人 子ども青少年課：5 人 出席者計 27 人	
	< 案件 1 各機関より報告事項(自己紹介を含む) > (全国若者支援連絡会議)『第 19 回登校拒否・不登校問題 全国のつどい in 滋賀』『登校拒否を克服する会』の紹介。  (大阪府枚方保健所)今年度、保健予防課はケースワーカー3 名、保健師 4 名の体制となった。  (寝屋川高校)枚方サポステと連携して中途退学者等のフォローを行なっている。昨年は 78 名の退学があった。うち 47 名が 1 年生であった。例年よりもやや多い。定時制高校では不登校の子はぎりぎりまで在籍することが多い。中退者は進路変更、経済的理由で中退する子が多い。  ※その他機関は自己紹介のみ。  < 案件 2 ひきこもり等青少年支援市町村連絡会の報告(府の今年度の事業等) > レジメに基づき、子ども青少年課から報告を行なった。また 25 年度のひきこもり相談の	

総件数を口頭で報告した。

NPO 法人ホースフレンズ(枚方若者サポートステーション)に、大阪府から今年度委託された事業について説明をしてもらう。

(枚方若者サポートステーション)ホースフレンズとしては、サポートステーション事業、発達障害者気づき支援事業、青少年メンタルヘルス推進事業、高校中退・不登校フォローアップ事業、中間的就労の場づくり支援事業に関わっている。中間的就労については山田池公園の牧場を利用し、馬の世話や馬房の掃除などをしてもらう予定。交通費は出るがあくまで就労体験であり、雇用はできない。利用してもらう場合には本人が就労支援を受けており、中間就労が適しているかどうかの見立てがされていることが条件。直接牧場に入ってもらうことはできないので、希望される場合はまずサポステを通して欲しい。

(全国若者支援連絡会議)ひきこもり等相談窓口の報告、レポートを作ったほうがよいのではないか。対外的なアピールは必要と思われる。

<案件3 枚方公園青少年センターでの居場所事業について>

(子ども青少年課)今年6月に開始予定の居場所は枚方青少年センターの和室で週1回の頻度で行なう。利用してもらう場合は、まずひきこもり等相談窓口で相談を受けてもらう必要がある。

(全国若者支援連絡会議)自分たちが行なっている当事者の会の利用者をその居場所につなぐことは可能か。

(子ども青少年課)まず相談窓口に来ていただき、一対一の相談を行なってから判断させてほしい。

(枚方サポートステーション)居場所を見学したい、という問い合わせがよくあるが、市役所の居場所ではそれは可能なのか。

(子ども青少年課)居場所が軌道にのってから考えたい。

(全国若者支援連絡会議)ホースフレンズの居場所との違い、差別化しているところはあるのか。

(子ども青少年課)いまのところはない。利用者によってそれぞれの居場所の相性があると思うので、それで選んでもらえたらと思う。ホースフレンズとも連携していきたい。

<案件4 本年の事業予定とネットワーク会議の今後のあり方について>

昨年度のネットワーク会議でとりあげてきたテーマをふりかえった後、今年度のネットワーク会議をどう運んでいくかの意見交換をおこなった。

(子ども青少年課)今年も世話人会で細かなテーマ決めを行いながら開催していきたい。また、1年に1回はケースカンファレンスを行なう必要はあると考えている。

(パーソナルセラピー協会)サポートマップは市民からすると分かりづらい。この会におい

でも、どこの団体がどういった取り組みをしているのか共有することができればと思う。

(枚方サポートステーション)市の相談窓口が中心になって、リファーマのアドバイスを各団体にしてもらえたらと思う。

(全国若者支援連絡会議)この集まりで共有する目標、ゴールが見えにくい。ここで集まった結果が分かるとよいか。数字化した報告があってもいいと思う。

(枚方市障害自立支援協議会幹事会)居場所、サロン形式だと人は入りやすいが、課題が深まりにくい。当事者の会が必要と考えている。

<次回会議>

・平成 26 年 6 月 19 日（木）14 時より開催予定。

以上

会議の名称	平成 26 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 2 回 全体会＞
開催日時	平成 26 年 6 月 19 日（木） 14 時 00 分から 16 時 00 分まで
開催場所	メセナひらかた会館 特別会議室
出席者	枚方公共職業安定所：2 人 大阪府中央子ども家庭センター：1 人 大阪府立精神医療センター：2 人 枚方市社会福祉協議会：1 人 枚方市人権まちづくり協会：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 ひらかた市民活動支援センター：2 人 児童生徒支援室：1 人 産業振興課：1 人 障害福祉室：1 人 生活福祉室：1 人 保健センター：1 人 登校拒否を克服する会：1 人 パーソナルセラピー協会：1 人 子ども青少年課：4 人 出席者計 23 人
<p>＜案件 1 各機関・参加者より機関の特徴・活動内容の自己紹介＞ 持ち時間 5 分で紹介、その後質問の時間とした。</p> <p>(枚方若者サポートステーション)NPO 法人ホースフレンズがサポートステーション事業、子ども若者自立支援事業を受託して行なっている。サポートステーションではニート支援が中心。自立支援事業では他者との関わりに困難を抱えていて仕事に就くことができない人たちを対象とする。「居場所」を用意し、人との関わりを通して自信をつけてもらうよう努めている。</p> <p>受付の窓口は一括して行なっており、事情を聞いて適切な方に振り分けている。 支援は 6 ヶ月間に限定とされており、それに則って支援計画をたてるが、実際は 6 ヶ月を過ぎても関わりつづける場合もある。</p> <p>(産業振興課)市の就労振興を行なっている。支援対象の年齢は限定していない。</p> <p>(ハローワーク)求人の紹介のほか、訓練校の紹介やセミナーも実施している。45 歳未満の若者に対しては 2 ヶ月間の個別支援を行なう他、就職後の定着支援を行なうこともある。マザーズコーナーや、福祉職中心に紹介する福祉人材コーナーも設けた。最近の傾向として正社員、事務職は求人の数が減少傾向にある。</p> <p>(ひらかた市民活動支援センター)：当事者団体や支援団体に当センターに登録してもらうことで、問い合わせされる方にそれらの機関を紹介している。</p>	

(とれぶりんか)不登校をはじめとする、しんどい事情を持った若者のための居場所づくりを行なっている。いろいろなアプローチを通じて若者に自信がつくよう、共に行動している。

(パーソナルセラピー協会)こころの支援を行なっている。カウンセリング、アロマやヨガなど楽しく生きるための支援。対象をとくに限定はしていないが、30～50代の女性が多い傾向。

(適応指導教室ルポ)家庭と学校との中間的な存在として、学校と連携しながら小、中学生を支援している。午前中は自学自習、午後はグループ活動を行なう。申し込みは所属の学校にて、入所までは1ヶ月ほどかかる。本人と親対象のカウンセリングも行なう。訪問指導の利用者は昨年3名、現在は1名。

(大阪府中央子ども家庭センター)児童、青少年の相談をうけつける。18歳未満が対象ではあるが、相談を継続しているうちにそれ以上の年齢になった場合、そこで打ち切らず相談をつづけることもある。青少年相談員は1名。昨年度は新規相談が170人あった。青少年相談で最も多いのは性格・行動についての相談でその中にひきこもり、不登校の相談が含まれる。

(府立精神医療センター)成人の外来は予約不要。児童・思春期外来は事前に予約が必要となるが、4ヶ月から6ヶ月待ちの状態。ただし、本人の自傷、他害が激しい等内容によっては即時の対応を検討する。入院に関しては思春期の病床が一杯で余裕がない。退院後も生活が安定するまでワーカーが関わることもある。デイサービスの年齢制限は設けていないが30、40代男性の利用が中心のため、若い人には作業療法をすすめることが多い。

(枚方市保健所)業務内容は昨年度から変わらずそのまま引き継がれた。精神保健福祉チームが存在し、心の相談はそこで受け付ける。保健師2名とケースワーカー3名の体制。保健師、嘱託医による家庭訪問も行なっている。本人が家から出ない場合、まず家族から聞き取りを行ない、家族の了解を得てから会いに行く。ひきこもりについては、家族交流会を月1回実施しており、毎回10名ほど参加している。30、40代のひきこもりの子どもをもつ親たちが中心に参加している。

(保健センター)健康相談、健診を行なっている。保健師、栄養士、心理士が所属。

(障害福祉室)障害者手帳の申請や福祉サービスの提供を行なう。申請後手帳がおりに2ヶ月ほどはかかる。まず本人と面接を行い、その後適切なサービスへとつなぐ。ケースワーカーが精神医療を受けている人の各種サービスの手続きも行なっている。就労移行、ホームヘルパーによる生活能力の回復と維持など。在宅サービスをうける条件は、必ずしも障害者手帳が必要なわけではないが医師による意見書は必要。就労支援にはいくつか種類があるが、A型は一応2年が目処で、延長には審査が必要となる。

(障害者相談支援センター)地域活動支援センター I 型事業と併設、障害者の生活相談、日中活動やプログラムを実施している。日中規則的に参加できなくても可。自由に参加してもらえればと考えている。手帳がなくても参加はでき、センターによっては利用にあたって登録してもらおう。利用者をみていると発達障害は知的障害にも精神障害にもあてはまらないので発達障害者のための居場所が別に必要だと感じている。

(生活福祉室)生活保護の受給は平成 26 年 3 月時点で 5515 世帯。高齢世帯が増加しているか。生活困窮者自立支援制度では生活保護にいたる前の段階から早期に支援を行なう。就労支援ではサポステ事業と住み分けをしながらも連携を行なう。

(枚方社会福祉協議会)福祉事業で構築された地域ネットワーク活動が、孤立化を防ぐ役割もあると考える。

< 案件 2 大手前高校のスクールソーシャルワーカーの取り組みについて >

大手前高校では新たにソーシャルワーカーを起用したとの報告があった(資料 2)。会議の参加者からまたアドバイスをいただければ、とのことだった。

< 次回会議 >

・平成 26 年 8 月 21 日 (木) 15:30 よりラポールひらかた 3 階研修室 1 にて開催予定。

以上

会議の名称	平成 26 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 3 回 全体会＞
開催日時	平成 26 年 8 月 21 日（木） 15 時 30 分から 17 時 30 分まで
開催場所	ラポールひらかた 3 階研修室 1
出席者	枚方公共職業安定所：1 人 大阪府立精神医療センター：3 人 枚方市社会福祉協議会：1 人 枚方若者サポートステーション：3 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 枚方市障害者就業・生活支援センター：1 人 ひらかた市民活動支援センター：1 人 枚方市人権まちづくり協会：1 人 日本パーソナルセラピー協会：1 人 若者支援全国協同連絡協議会：1 人 枚方市保健所 保健予防課：1 人 児童生徒支援室：1 人 産業振興課：3 人 生活福祉室：1 人 家庭児童相談所：1 人 保健センター：2 人 福祉部：1 人 子ども青少年課：6 人 出席者計 30 人
<p>＜案件 1 会員対象研修＞ 白水崇真子さん（一般社団法人キャリアブリッジ代表理事）の講演。若者への就労支援から、地域生活支援、定時制高校での学生支援など幅広い領域での活動について講演していただいた。</p> <p>＜案件 2 事務連絡＞ 枚方市地域就労支援センターより、介護職員初任者研修の案内があった。</p> <p>＜次回会議＞ ・平成 26 年 8 月 21 日（木）15:30 よりラポールひらかた 3 階研修室 1 にて開催予定。 以上</p>	

会議の名称	平成 26 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 4 回 全体会＞	
開催日時	平成 26 年 10 月 16 日（木）	15 時 00 分から 17 時 00 分まで
開催場所	メセナひらかた会館 特別会議室	
出席者	枚方公共職業安定所：1 人 大阪府立精神医療センター：1 人 枚方市社会福祉協議会：1 人 ひらかた市民活動支援センター：2 人 枚方市いきいきネット相談支援センター：1 人 枚方市人権まちづくり協会：1 人 近畿情報高等専修学校：1 人 大手前高校定時制の過程：1 人 寝屋川高校定時制の課程：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 枚方市保健所 保健予防課：2 人 保健センター：1 人 パーソナルセラピー協会大阪支部：1 人 東大阪市子どもすこやか部：2 人 東大阪市労働雇用政等室：1 人 東大阪市政策調整室：1 人 東大阪市生活福祉室：1 人 児童生徒支援室：1 人 産業振興課：4 人 障害福祉室：1 人 生活福祉室：5 人 家庭児童相談所：1 人 枚方公園青少年センター：1 人 子ども青少年課：5 人 出席者計 39 人	
＜案件 1 各機関からの現状報告＞ ・出席者それぞれの挨拶がされる中で、「生活困窮者自立支援全国研究交流会」「障害者差別解消法について」「就職支援セミナー」「企業就職面接会」の案内がされた。子ども青少年課からは「雨宮処凛講演会」「枚方市青少年サポートマップ」を案内した。		
＜案件 2 豊中市の就労支援の取り組みについて＞ ・豊中市福祉事務所主任の西岡正次さんから豊中市での就労支援についての紹介（資料）。豊中市くらし再建パーソナルサポート事業などの説明をしてもらい、自治体における就労支援のポイントやこれまでの経験のなかで西岡さんが感じられたことを話してもらった。		
＜案件 3 事務連絡＞ ・平成 26 年 12 月 18 日（木）14:00 よりメセナひらかた会館特別会議室にて開催予定。		
以上		

会議の名称	平成 26 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 5 回 全体会＞	
開催日時	平成 26 年 12 月 18 日（木）	15 時 00 分から 17 時 00 分まで
開催場所	メセナひらかた会館 特別会議室	
出席者	枚方公共職業安定所：2 人 大阪府立精神医療センター：1 人 ひらかた市民活動支援センター：2 人 地域就労支援センター：1 人 枚方市いきいきネット相談支援センター：1 人 枚方市人権まちづくり協会：1 人 枚方若者サポートステーション：1 人 大手前高校定時制の過程：1 人 パーソナルセラピー協会大阪支部：1 人 若者支援全国協同連絡会議：1 人 枚方市保健所 保健予防課：2 人 保健センター：1 人 児童生徒支援室：1 人 産業振興課：2 人 障害福祉室：1 人 生活福祉室：1 人 家庭児童相談所：1 人 枚方公園青少年センター：1 人 子ども青少年課：4 人 出席者計 26 人	
< 案件 1 各機関からの現状報告 > (市民活動支援センター) 1/18、ラポールひらかたにて震災 20 年ということもあり、被災者支援のとりくみについてイベントを開催予定。若者が中心になって準備を進めている。 男女共同参画の取り組みとして、川口加奈さんによる講演会が 2/15 に予定されている。 (若者支援全国協同連絡会議) 全国若者・ひきこもり協同実践交流会 in おきなわの案内。 (産業振興課) 枚方での就活を目的にした地元企業による合同企業説明会が 12/16 にあった。42 名の参加があった。 (子ども青少年課) 市民向け連続講座の案内、相談支援センター通信「ひらぼう」の配布、枚方子ども夢基金活用事業「万城目学さん講演会&トークセッション」の案内。		
< 案件 2 子ども青少年課より相談支援センターの活動実績と報告書作成について > ・平成 25 年度の相談件数資料に基づいて相談支援状況を報告した。 (サポートステーション) 10 代不登校の多さは、サポステとの相違点。前段階での支援の必要性を感じた。 (市民活動支援センター) 本人に届いているかが重要。入り口も広く、奥行きも広くし		

ておく必要。どう本人に会っていくか、玄関を越えるイメージ。戦略がいる。ケースについて話ができる場があってもよいかもしれない。

(大手前高校) 10代の相談について考えると、本校の生徒に重なる。背景に障害があり、手帳につながらないケースや、保護者に抵抗感があり支援につながらないケースなど困難を感じる。

< 案件 3 ハローワークより現在の求職状況 >

- ・ ハローワークより、資料に基づいて現在の大阪及び枚方の求職状況の説明。ハローワークにおける障害者の就職支援について説明。
- ・ 枚方管内の求人倍率は大阪府に比べて1倍に満たないが、改善傾向ではある。また、職種別に見ると倍率の高いものもある。
- ・ 大阪府の障害者の雇用率は全国に比べ高い。枚方のハローワークでは、専門援助部門を設け、障害者雇用の相談支援を進めている。

< 案件 4 生活福祉室より生活困窮者支援について >

- ・ 生活福祉室より、資料に基づいて生活困窮者自立支援の本市の取り組みと進捗状況の説明。
- ・ 各事業について、厚生労働省から順次詳細が下りてきている状況で、枚方市としての取り組みについても順次検討を行っている。方針が決定しているものもあれば、未定のものもある。
- ・ 事業には必須事業と任意事業がある。新規に設置するものもあれば、既存の窓口を活用するものもある。

< 案件 4 その他 >

- ・ 次回、平成 27 年 2 月 19 日 (木) 14:00 より開催予定。

以上

会議の名称	平成 26 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 6 回 全体会＞
開催日時	平成 27 年 2 月 19 日（木） 14 時 00 分から 16 時 30 分まで
開催場所	ラポールひらかた 3F 和室
出席者	<p>大阪府立精神医療センター：1 人  ひらかた市民活動支援センター：2 人  不登校を支援する会：1 人  枚方市地域就労支援センター：1 人  枚方市社会福祉協議会：1 人  枚方若者サポートステーション：1 人  枚方市いきいきネット相談支援センター：2 人  寝屋川高校定時制の過程：1 人  大手前高校定時制の過程：1 人  ひらかたハートセラピー協会：1 人  イシス大阪家族会：1 人  不登校の親の会「カモミール」：2 人  つばさの会：1 人  枚方市保健所 保健予防課：2 人  保健センター：1 人  児童生徒支援室：1 人  産業振興課：1 人  障害福祉室：1 人  家庭児童相談所：1 人  生活福祉室：1 人  枚方公園青少年センター 1 人  子ども青少年課：5 人</p> <p style="text-align: right;">出席者計 30 人</p>
<p>＜案件 1 各機関からの現状報告＞  (子ども青少年課) 青少年サポート講座の案内。『ひらぼう』の第 2 報を配布。</p> <p>＜案件 2 生活福祉室より、生活困窮者支援について＞  ・生活福祉室より、生活困窮者自立支援制度について説明してもらう。</p> <p>(不登校を支援する会) 利用者はさまざまな問題を抱えているものと思う。行政のなかでいくつかの窓口にまたがるようなケースが多いと思われるが、そのいずれともはっきりいえないような狭間の人はどうしたらよいか。</p> <p>(生活福祉室) 生活困窮者がこの事業での対象。しかしはっきりと分ける必要性があるとも思えない。窓口は多いほうが良い。各窓口で柔軟に連携、リファーができることが重要。</p> <p>(不登校を支援する会) 早期的な支援はたとえばどんなものがあるか。</p> <p>(生活福祉室) アウトリーチなど検討中。相談員を育てる必要性も感じており、相談員に研修に参加してもらう他、主任相談員を用意する。ネットワークの構築なども考えている。</p> <p>(大手前高校) 窓口には何とか行ったのに、たらい回しになるようなことは避けて欲しい。支</p>	

援のプランニングまでしてほしい。  
(不登校を支援する会)広報の充実が重要と思われる。

#### < 案件 3 家族会・当事者会との意見交換 >

(つばさの会)家族会参加は毎回 10~15 人くらい。新規で来られる方も毎月いる。ネットを見て知った人が多い。ひきこもり本人むけに経理や簿記の体験支援や居場所支援も行っている。事務所で働いてもらうケースもある。精神、知的に障害をもっている利用者もいるが、そのフォローの難しさを感じている。市町村の広報に載せてもらいたいのだが、利用者が少ないということで断られている。

(イシス大阪家族会)家族会活動が中心。ひきこもりの子をもつ親たちが集まって悩みを言い合ったり情報交換をしている。ひきこもりによって、親たちのほうも生き方が問われている。年に 1、2 度飲み会も行っている。以前はイシスが居場所も行っていたがそれもなくなってしまった。それまで主導していた人が突然いなくなって組織が一度解体された過去がある。ふりまわされた。会を維持することの難しさ感じる。

(カモミール)不登校を支援することを目的に始まった会。10 台から 20 台半ばまでの年齢の当事者が多い。河合隼雄の言う「不登校はいつか羽化するためのサナギの状態」という言葉をモットーに周囲が本人を見守る姿勢が重要と考えているが、親にとっては辛いことなのでそれを支えあっていく場を目指している。特に高校生の不登校は留年、退学につながるのしんどいと思われる。本人たちの支援も行っている。カモミール通信を発信するなどが当事者にも届けばと思っている。

(当事者、〇〇さん)不登校だった頃、学校に行くことが正しく行かないことが悪いといった周囲の認識に憤りを感じた。学校はあくまでその先のための手段であり、行くことがゴールじゃない。行かなきゃならない、という常識は窮屈だった。学校が絶対という意識を変えていくことは重要ではないか。

(北河内交流会)家族会は毎回 15 名ほど参加している。初参加の人も毎回いる。家族会は不登校、ひきこもりで別かれてそれぞれの親で話し合っている。お母さんたちが話し合って元気になれる会を目的にしている。不登校を克服する会としては毎年、全国交流会を行う。当事者だけでなく支援者への支援も重要、家族会でもその世話人同士が語る場を作る場がないので、その必要性を感じている。また、家族会同士でつながりをもって連携していくことができればおもしろいと思う。

(とれぶりんか)子の親離れと同時に、親には親の子離れをたのしんでほしい、と思う。子どもたちの居場所を作れないかと活動をしている。当事者の子たちはずっと自分のことを考え思いつめている。それではしんどいので、なるべく考え込まないですむようにできたらと思う。居場所にでてくるのは大変だが、その子が大事に思っているもの一つとつながることができればと考えている。

#### < 案件 4 その他 >

今年度のネットワーク会議は今回で最後であること、次年度も継続して行うことを確認。

次年度の初回開催日については、日程が決まり次第連絡をすることとなった。

以上





ひきこもり等子ども・若者相談支援センター  
枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議  
平成26年度の記録 [資料編を除く]

平成28年3月発行

枚方市子ども青少年部子ども青少年課  
枚方市大垣内町2丁目1番20号

TEL: 075-841-1375 (直通)

075-843-2255

(ひきこもり等子ども・若者相談支援センター)

FAX: 075-843-2244

e-mail: [kodosei@city.hirakata.osaka.jp](mailto:kodosei@city.hirakata.osaka.jp)

